

The Record 2019

vol.713

April 4



The Record 2019.4 vol.713

平成を振り返る ー前編ー

平成31年度事業計画書

4

April

CONTENTS

1 Monthly News Digest

特集

3 平成を振り返る 一前編一

特報

7 平成31年度事業計画書

9 公正取引委員会へ
再販弾力運用報告書を提出10 「知的財産推進計画2019」の
策定に関する意見書を提出11 「第11回CDショップ大賞2019」
授賞式開催

12 私の一枚 season 2

13 Monthly Production Report

14 GOLD DISC

Monthly
News
Digest

2/20 Wednesday

海賊版CD無断複製販売の
摘発にあたり群馬県大泉警
察署、群馬県警察本部に
感謝状を贈呈

2月20日、当協会は、群馬県大泉警察署を訪問し、著作隣接権者に無断でCD5タイトルの複製・頒布を行っていた著作権法違反・詐欺事件被疑者らの摘発について、感謝状を贈呈し感謝の意を表した。

本事件は、現在は廃盤となっている当協会会員社が権利を有するCD5タイトルを無断で作成し、それらの海賊版CDを正規品と偽り全国の中古品買い取り店において5タイトル合計約30,000円で買い取りさせていたもので、2018年1月、群馬県大泉警察署、群馬県警察本部生活安全部生活環境課および群馬県警察本部刑事部組織犯罪対策課の約1年間にわたる捜査により、著作権法違反および詐欺の疑いで被疑者5名を逮捕した。

当日は、当協会より高杉常務理事が群馬県大泉警察署を訪問。荒船和男署長に感謝状を贈呈し、「大泉警察署による長期間の粘り強い捜査が被疑者逮捕に至り、適切な権利保護の実現に結びついた」と謝辞を述べた。これを受けて荒船署長からは「増加している著作権の権利侵害事件に対して、引き続き取り組みを強化していく」との方針が表明された。

当協会では、今後も、海賊版CD・DVDの販売などの侵害行為撲滅のため、警察

や他団体との連携を強化して積極的に違法対策に取り組み、音楽文化の健全な発展に寄与していく。



2/27 Wednesday

第84回 RIAJ セミナー開催

2月27日、当協会の会議室において、第84回RIAJセミナーが開催された。

今回のセミナーは、ひかり協同法律事務所弁護士 三上安雄氏を講師に招き、「働き方改革の実務対応」をテーマに実施。当日は、会員社のHRM部門、法務部門などを中心に約30名が参加した。

講演では、働き方改革関連法の概略など、労働時間の上限規制対応、年休5日の時季指定義務対応に加え、その他の改正事項対応について解説が行われた。参加者からは、「働き方改革関連の法改正に係る実務対応という、喫緊課題の具体的説明を聞けて非常に有益だった」「ガイドライン・通達の解釈に関する解説を聞けて理解が深まった」といった意見が多数寄せられた。



このエルマークは、レコード会社・映像製作会社が提供するコンテンツを示す一般社団法人 日本レコード協会の登録商標です

「日比谷音楽祭」開催決定！

6月1日、2日の2日間、東京都千代田区の日比谷公園において「日比谷音楽祭」が開催される。

本イベントは、東京のセントラルパーク・日比谷公園で開催する『フリーで誰もが参加できる、ボーダーレスな音楽祭』。多様性を受容し、世代、国籍、障がい、経済格差など、さまざまなボーダーから解放され無料で自由に楽しむこと、異なる世代と一緒に音楽を楽しむこと、子どもたちが「自分の音楽の楽しみ方」を見つけられるような、一生忘れない音楽体験をつくることなど、人々がより自由に多様な音楽に触れるきっかけをつくり、東京2020オリンピック・パラリンピックの気運醸成にも資する音楽祭として、東京の街を音楽で盛り上げていくことを目指す。当協会は、本イベントを主催する日比谷音楽祭実行委員会（委員長：亀田誠治氏）に実行委員として参加している。

全てのコンサートやワークショップは無料で楽しむことが可能。詳細は以下の公式サイトおよび公式SNSアカウントを参照。

▶日比谷音楽祭公式サイト

<https://www.hibiyausicfes.jp/>

▶公式SNS

[Twitter] @hibiyamusicfes

[Instagram] [instagram.com/hibiyamusicfes/](https://www.instagram.com/hibiyamusicfes/)

[Facebook] [facebook.com/hibiyamusicfes](https://www.facebook.com/hibiyamusicfes)



【開催概要】

名称：日比谷音楽祭

日時：2019年6月1日（土）、2日（日）10:30～20:30（予定）

場所：日比谷公園（東京都千代田区）

参加：The Music Park Orchestra with 石川さゆり、coba、JUJU、新妻聖子、布袋寅泰、ミッキー吉野&タケカワユキヒデ fromゴダイゴ、よよか（50音順）／金子飛鳥×林正樹、洗足学園音楽大学フレッシュマン・ウィンド・オーケストラ & TRUE(from響け！ユーフォニアム)、東京消防庁音楽隊、長須与佳／清野樹盟／清野さおり／佐久間杜和能／樋口千清代、平井秀明（50音順）

主催：日比谷音楽祭実行委員会

GfKジャパン「2018年音楽ストリーミング配信市場動向」を発表

2月22日、GfKジャパンは主要音楽ストリーミング配信サイトにおける再生実績集計（*1）に基づく2018年の音楽ストリーミング配信の市場動向を以下の通り発表した。

- 2018年の音楽ストリーミング配信の再生回数は前年比51%増
- 再生回数の分類別構成比は、邦楽60%、洋楽28%、アジア12%
- K-POPを含むアジア分類の再生回数は前年の3倍弱

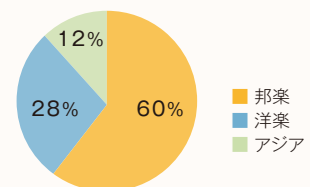
2015年頃にサブスクリプション型のサービスが開始されて以降、音楽制作会社各社の市場参入に伴う配信楽曲の増加とともにユーザーへの普及が進み、音楽ストリーミング配信市場は年々拡大傾向にある。

2018年の音楽ストリーミング配信市場における再生回数は、前年比51%増と急伸した。この背景には、ユーザー層の拡大や、ストリーミング配信解禁による楽曲の増加がある。また、1週間の再生回数が200万回を超える楽曲も登場するなど、市場は大きな盛り上がりを見せた。

邦楽・洋楽・アジアの分類別（*2）に動向をみると、再生回数構成比では邦楽が60%となり、最も大きな割合を占めた（右下図）。すべての分類で前年の再生回数を上回っており、特に伸び幅が大きかった「アジア」は、2018年に大きな注目を集めたK-POPジャンルの楽曲がけん引した。

年間再生回数上位10タイトルをみると、前年に引き続き「Shape of You／Ed Sheeran」が人気を集める中、DA PUMP、あいみょん、ONE OK ROCK、TWICEといったアーティストが並んだ。タイトルの分類をみると、邦楽が8曲、洋楽とアジアが1曲ずつを占めた。前年の洋楽7曲、邦楽3曲という構成から状況が大きく変化し、邦楽やアジア分類の楽曲をストリーミング配信で聞くユーザーが増加したことがうかがえる結果となった。

2018年の音楽ストリーミング配信における分類別再生回数構成比



（*1）主要ストリーミング音楽配信サイトにおける再生実績に基づく集計対象音楽配信サイト（2018年12月末時点）：Amazon Music Unlimited（2017年11月8日サービス開始以降）、Apple Music、AWA、dミュージック、Google Play Music、KKBOX、LINE MUSIC、Rakuten Music、レコチョク
集計期間：2017年1月2日～12月31日、2018年1月1日～12月30日（週次集計）

（*2）分類別データについては、年間再生回数上位1000タイトルを集計対象とする

Coming Next Artists シーズン2情報

音楽ナタリー内では、新たに以下の特集記事が公開中です。是非ご覧ください。

ディスコレビュー

ましのみ

「べっとぼとレセプション」（ポニーキャニオン）

レビューア：Tom-H@ck

つぼみ

「9」（よしもとミュージックエンタテインメント）

レビューア：日笠麗奈

キュレーター対談

ZAQ（バンダイナムコアーツ）

キュレーター：藤井隆

Kitri（日本コロムビア）

キュレーター：金澤ダイスケ



▲Coming Next Artists シーズン2（音楽ナタリー内）
<https://natalie.mu/music/pp/comingnextartists02>

当協会組織変更（4月1日付）

企画・広報部のグループ制を廃止し、企画グループと広報グループを統合する

当協会事務局人事（4月1日付）

■昇格

丹野 祐子

企画・広報部 副部長（前：企画・広報部 広報グループ課長）

苅部 好雄

著作権・契約部 課長（前：著作権・契約部 契約担当課長）

■異動

米内 友伸

企画・広報部 課長（前：企画・広報部 企画グループ課長）

新屋 泰造

管理部門付

一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）へ出向（前：著作権・契約部 リーダー）

今年、4月30日をもって天皇陛下が退位され、翌5月1日に皇太子殿下が天皇に即位される。同日に施行される新元号について、政府は国民生活の混乱を避けるため、改元1か月前の4月1日に閣議決定を行い、同日、新たな元号「令和」を公表した。30年余り続いた「平成」の時代は、「IT革命」が2000年ユーキャン流行語大賞の年間大賞に選ばれたように、特にIT（情報技術）分野が飛躍的に発展し、人々のコミュニケーションやライフスタイルの在り方は大きく変化した。それは音楽業界、レコード業界にも多大なる影響を与え、「アナログからデジタルへのシフト」「音楽聴取手段の多様化」など従来の産業構造に大きな転換をもたらすことにもなった。

本誌ではこの平成時代に起きた出来事を、まさに元号の変わり目に当たる4、5月号の2号連続特集として取り上げる。

10大トピックス

CDが全盛に

平成10年、レコード産業がピークに

レコード産業がピークを迎えたのは平成10年。当時はまだ「音楽ビデオ（※1）」カテゴリの集計を行っていなかったため、「オーディオレコード（※1）」のみで生産実績総合計金額が6,075億円にまで達し、レコード業界の市場規模が過去最大となった年であった。

▶生産実績金額の推移はP5～6を参照

同年を含む前後3年間では、平成元年より開始した当協会ゴールドディスク認定において過去最高となる8ミリオン認定を記録したアルバム「First Love」（宇多田ヒカル／H11年3月発売）や、次点の5ミリオン認定となったアルバム「REVIEW ～ BEST OF GLAY」（GLAY／H9年10月発売）、「B'z The Best "Pleasure"」（B'z／H10年5月発売）を筆頭に、アルバム・シングルあわせて185タイトル（※2）のミリオン認定作品が誕生し、業界の発展に大きく貢献した。



「First Love」
宇多田ヒカル



「REVIEW ～ BEST OF GLAY～」
GLAY



「B'z The Best "Pleasure"」
B'z

音楽プロデューサーの時代、到来！

平成2～11年、いわゆる「90年代」に従来のポップス・歌謡・ニューミュージックといったジャンルとは異なる「J-POP」という言葉が浸透。多くのドラマ主題歌やCMタイアップソングからヒット曲が生まれ、平成4年には世界初の通信カラオケが発売されたことで歌がより身近に楽しめるようになるなど、大きな変化が見られた。この時期には、長戸大幸氏や小室哲哉氏をはじめとするアーティストの総合プロデューサーが活躍、数多くのアーティストを発掘・育成し、デビューさせていった。プロデューサーによるアーティストプロデュースの流れは現代も続いており、平成10年代以降もアイドル、バンド、ソロ・アーティストなどで様々な展開が見受けられる。

外資系レコードショップムーブメントの隆盛

外資系レコードショップの先駆けとして、昭和55年札幌に日本1号店をオープンさせた「タワーレコード」。当初は主に輸入盤を取り扱

うスタイルで、翌年には渋谷に日本2号店を出店した。平成に入ると、2年に、日本初の外資系大型レコードショップ「ヴァージン・メガストア」1号店がレコード店・ライブハウスが集まる東京・新宿に誕生。同年は、「HMV渋谷」（平成10年の移転、平成22年の閉店を経て平成27年渋谷モディに「HMV&BOOKS SHIBUYA」を開店）も開店、また、タワーレコードも本格的にJ-POPなどの取り扱いを開始している。平成7年には、タワーレコードが、世界最大規模となる渋谷店を移管オープンさせ、レコードショップのメガストア化を決定づけた。これらの店は、独自にキュレーションされた商品陳列、店頭用試聴機の設置など様々な施策によってユーザーへの商品訴求が行われていたが、その中で「渋谷系」と呼ばれる邦楽ジャンルも現れ、ファッションなど他文化にも波及した。また、渋谷には約1,000人を収容するライブハウス「ON AIR」（現TSUTAYA O-EAST）が平成3年にオープン、共に「音楽の街・渋谷」を形成した。

インターネットによる音楽の普及

着うた®から次々とヒット曲が誕生

平成11年にNTTドコモがiモードサービスを開始、翌年にはJ-フォンの「写メール」サービスが登場して携帯電話が一般化するなか、平成14年にau（KDDI）が「着うた®（※3）」サービスを開始した。当時の通信環境・料金の負担を鑑み、楽曲の使用時間は45秒以内であったが、着メロとは異なりCD音源を着信音に設定できるほか、発売前作品を先行配信することで新曲視聴としても一役買っていた。その後パケット通信料定額制が導入され、より大容量のコンテンツ提供が可能となったことで、平成16年にはフルサイズの楽曲ダウンロードサービス「着うたフル®（※3）」がスタート。同市場の拡大を受け、当協会は平成18年秋より有料音楽配信認定の公表を開始。その前年に集計を始めた音楽配信売上統計も右肩上がり続け、平成21年には過去最高の910億円を記録したが、その85%はフィーチャーフォン、いわゆる「ガラケー」によるものであった。

▶音楽配信売上実績の推移はP5～6を参照



有料音楽配信認定「着うた®」カテゴリにおいて過去最高となる4ミリオンを記録したO-ZONE「恋のマイアヒ」

「音楽を持ち歩く」デジタルオーディオプレイヤー

平成3年に国際規格として公開された音声圧縮フォーマット「MP3」をはじめとする音楽ファイルによって、CDやカセットテープといった

（※1）「オーディオレコード」はCD、レコードなど音のみを収録した商品、「音楽ビデオ」はDVD、Blu-ray Discなどの音楽映像商品。

（※2）平成9～11年の3年間に発売日からの累計正味出荷枚数が100万枚以上となり認定された作品数の合計。なお、同年内に同一タイトルが2回以上ミリオン以上認定された場合は1タイトルとしてカウント、翌年に同一タイトルが再度ミリオン以上認定された場合は再カウントしている。

（※3）「着うた®」「着うたフル®」は（株）ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です。

メディアを使用せずに“多くの音楽を携帯して持ち歩く”ことを可能とするデジタルオーディオプレイヤー（以下DAP）が登場。平成11年にソニー社から「メモリースティック ウォークマン」、平成13年にアップル社から音楽再生・管理ソフト「iTunes」および専用再生機「iPod」がリリースされ、その2年後には「iTunes Music Store」がサービスを開始した（日本は4年後の平成17年にサービス開始）。日本でも「レコード会社直営」(現レコチョク)「bitmusic (現mora)」といった音楽配信サイトが次々と現れ、正規の音楽を検索・ダウンロード購入し、DAPへ転送してイヤホンで聴く、という楽しみ方が定着した。近年は、CDでは入りきらない音の情報量を収めた「ハイレゾ音源」の再生に対応する高音質DAPおよび対応するヘッドフォンも販売台数を伸ばしている。

違法ダウンロードの罰則化が施行

音楽を圧縮ファイルで管理することが一般的になる一方で、ネットワーク上で第三者と音楽ファイルを共有できる「ファイル交換ソフト」を用いた違法な音楽利用も増加した。平成22年当時の当協会調査によれば、違法ファイル等の年間ダウンロード数は推定43.6億ファイルとなり、同じ年の正規有料音楽配信の10倍に相当する規模との報告があった。この深刻な状況を受けて著作権法が改正され、平成22年、違法にアップロードされていると知りながら音楽・映像をダウンロードする行為は個人的に使用する目的であっても違法となり、平成24年には同行為が刑事罰の対象となる「違法ダウンロードの罰則化」が施行となった。当協会では、正規配信サイト識別マーク「エルマーク」の普及促進や、「映画盗撮防止キャンペーン」と連携した「STOP! 違法ダウンロード」といったキャンペーンを展開し、周知を行った。



「STOP!違法ダウンロード」キャンペーンポスター ©「映画館に行こう!」実行委員会

サブスクリプションサービスの定着

サブスクリプションサービスのはじまりは平成18年、「Napster Japan」がパソコン向け月額定額制音楽配信サービスを開始したことまで遡る。その後いくつかのサービス参入を経て、スマートフォンが急速に普及した平成24～25年、「うたパス」「dヒッツ」「レコチョクBest」などがローンチ。そして平成27年初夏以降、「AWA」「LINE MUSIC」「Apple Music」「Google Play Music」といった新たな定額制音楽ストリーミングサービスが相次いでスタートした。さらに翌平成28年には、10年前の平成18年にスウェーデンで設立され、現在では約1億人の有料会員数を持つ「Spotify」が日本でのサービスを開始し市場規模の拡大が続いている。平成30年には、同実績が大半を占める「ストリーミング」カテゴリの売上が、初めてダウンロードカテゴリを上回った。

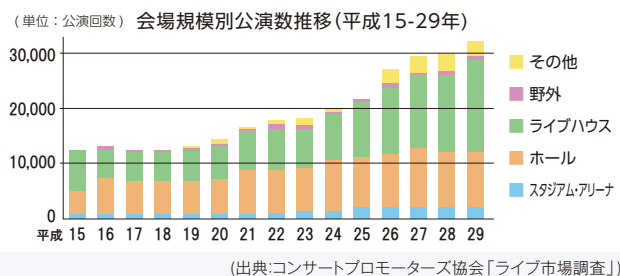
▶ストリーミング(サブスクリプション)売り上げの推移はP5～6を参照

リアルとネットで楽しむ

音楽フェスの勃興

世界的にCDなどパッケージ商品の「所有」からインターネット上で音楽を試聴する「アクセス」に市場が転換するなか、音楽を「体験」する楽しみ方も拡大した。“日本4大ロックフェス”ともいわれる「FUJI ROCK FESTIVAL (平成9年～)」「RISING SUN ROCK FESTIVAL (平成11年～)」「SUMMER SONIC (平成12年～)」「ROCK IN JAPAN FESTIVAL (平成12年～)」は、今では毎年恒例のイベントとして浸透。コンサートプロモーターズ協会によれば、今はテレビ・ラジオ局や

アーティスト主催を含めて全国各地で多様なテーマを持った音楽フェスが季節を問わず開催されており、この5年間でほぼ倍の数にまで増加しているという。コンサート・ライブ全体では、近年はドーム規模のツアーを開催するアーティストも複数組存在するようになった。同協会によればスタジアム・アリーナ規模での公演数は平成23年に1,000公演を超え、今では会場規模別の調査を開始した平成15年の約3倍に至る。公演の様相を収録した映像商品が普及したのも平成の時代だが、なかでも昨年引退した安室奈美恵最後のツアーを収録した映像商品は、音楽ビデオカテゴリ初のミリオン認定作品となった。



動画共有サイトの始まりと拡大

平成17年に「YouTube」がアメリカで誕生(日本版は平成19年～)、平成18年の「ニコニコ動画」開設、通信各社のブロードバンド普及も相まって、動画共有サイト利用が拡大。既存楽曲のカバーなどを行う「歌ってみた」や、音声合成システム「ボーカロイド」による歌唱動画の投稿などでファンを獲得し、メジャーデビューを果たすアーティストも続々と現れた。当協会の音楽メディアユーザー実態調査の主な音楽聴取手段を問う設問では、CD、テレビ、ラジオといった項目と比べYouTubeを選択するユーザーが最も多く、平成30年度調査においては65.9%が選択。近年は「Ustream (平成19年～、平成29年IBMへ移行)」「ニコニコ生放送 (平成19年～)」「SHOWROOM (平成25年～)」「LINE LIVE (平成27年～)」といったライブストリーミング形式の動画配信サービスによるユーザーとアーティストのリアルタイム双方向コミュニケーションも連日行われている。年々高まりをみせる動画配信サービスのニーズへの対応もあり、日本では通信速度が4Gよりも100倍速く大容量データを瞬時にやり取りできる次世代移動通信システム「5G」が本年にも開始、来年には実用化される見通しである。



アナログレコード低迷と再興

昭和50年代前半に最盛期を記録したアナログレコードの生産は、昭和57年に登場したCDの普及に伴い減少し、平成21～22年には数量・金額ともに最小となっていた。その翌年である平成23年より、3年前にアメリカで誕生した「RECORD STORE DAY」が日本でもスタート。元々は音楽のデジタル化が進む中で苦戦を強いられた独立系・個人経営のレコードショップを支援するというコンセプトから始まったが、今ではアーティスト参加によるイベントや限定盤のリリースなどスケールアップした展開がなされている。ほかにも、安価な再生機の流通や、国内製造工場の復活などもブームを後押ししたことでカジュアルユーザーへも裾野が広がった結果、生産実績は平成26年以降5年連続のプラス成長を遂げている。生産数量では平成29年に

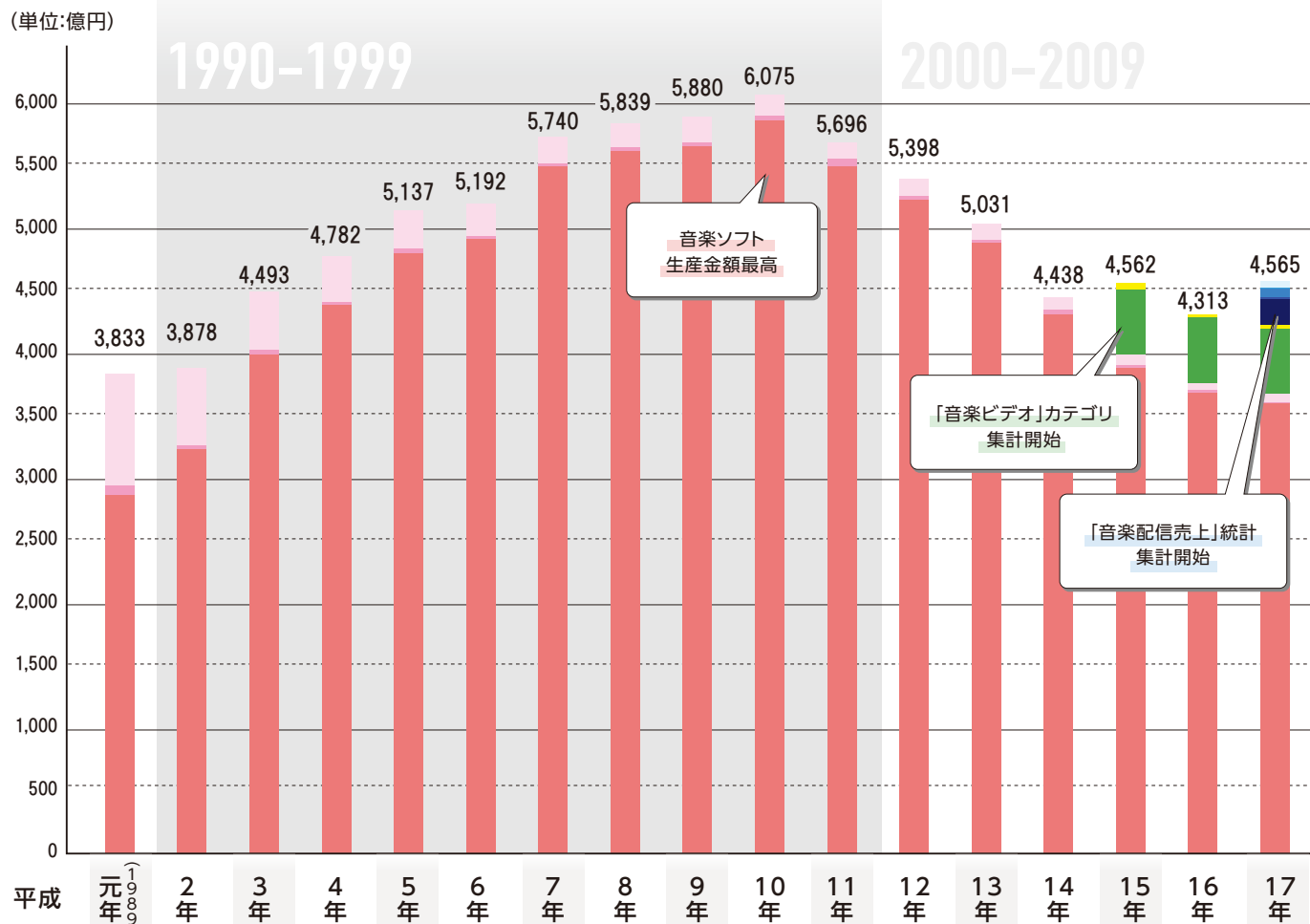
16年ぶりの100万枚超、生産金額では平成30年に18年ぶりの20億円超となった。

▶アナログレコード生産実績の推移はP5～6を参照

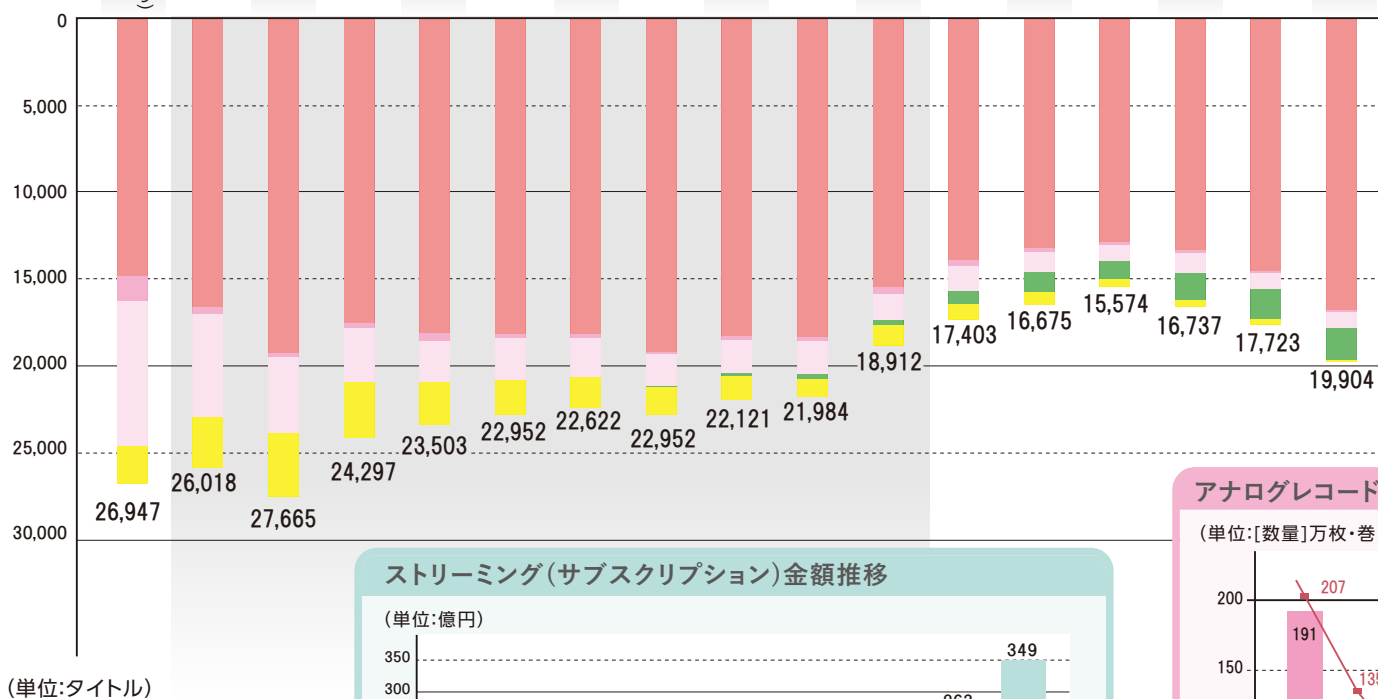


平成最後のRSD2019は4月13日(土)に開催される

音楽ソフト生産金額+音楽配信売上の推移

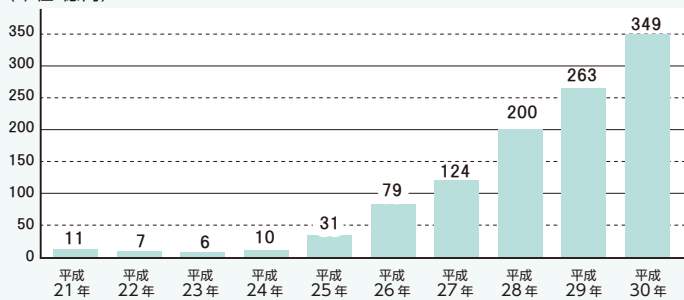


新譜数推移



ストリーミング(サブスクリプション)金額推移

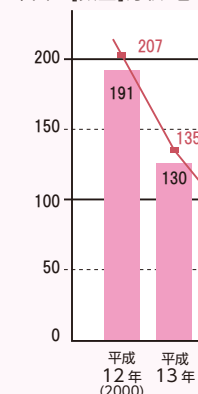
(単位:億円)



※平成28年までの実績は、広告収入を含まないサブスクリプションのみの数字。

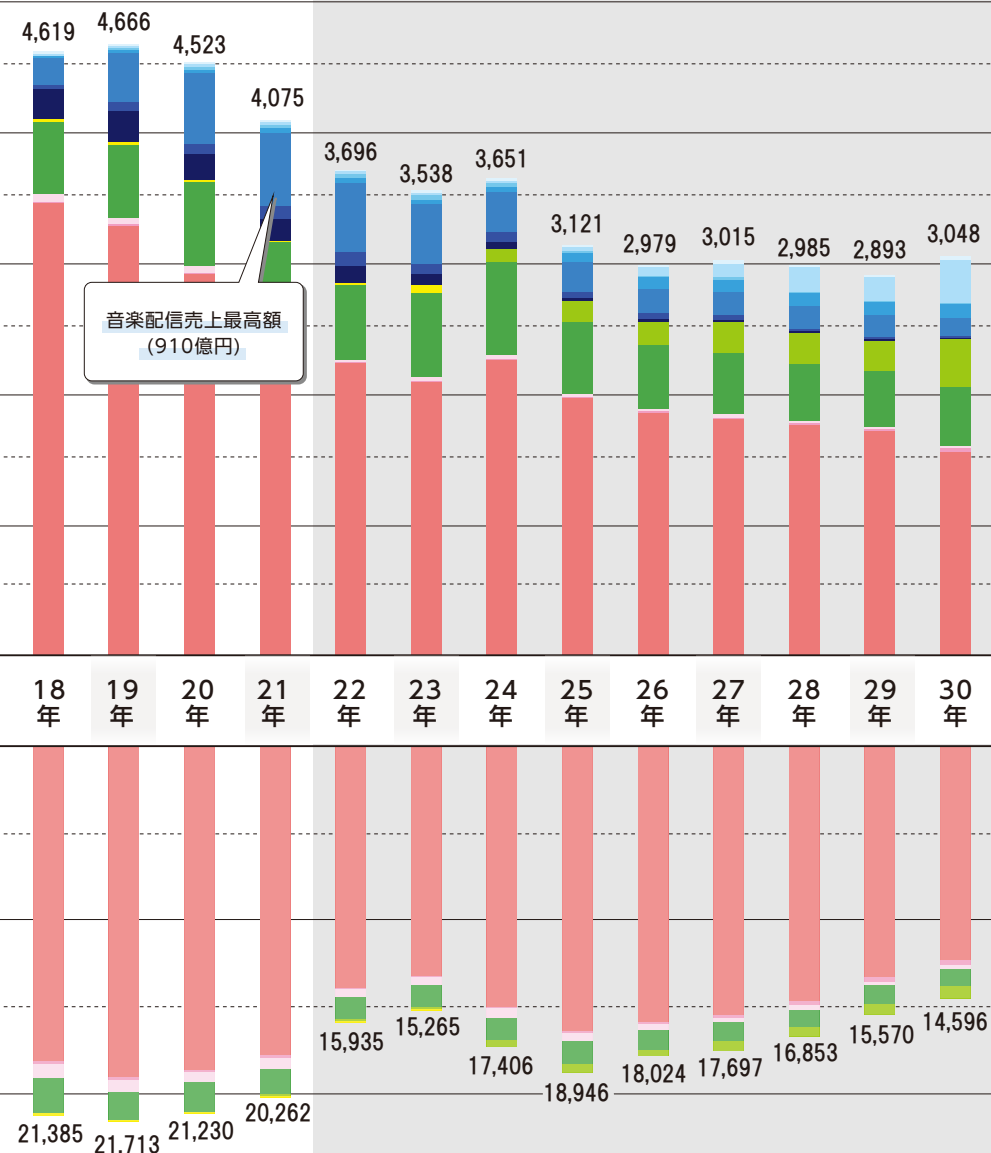
アナログレコード

(単位:[数量]万枚・巻、)

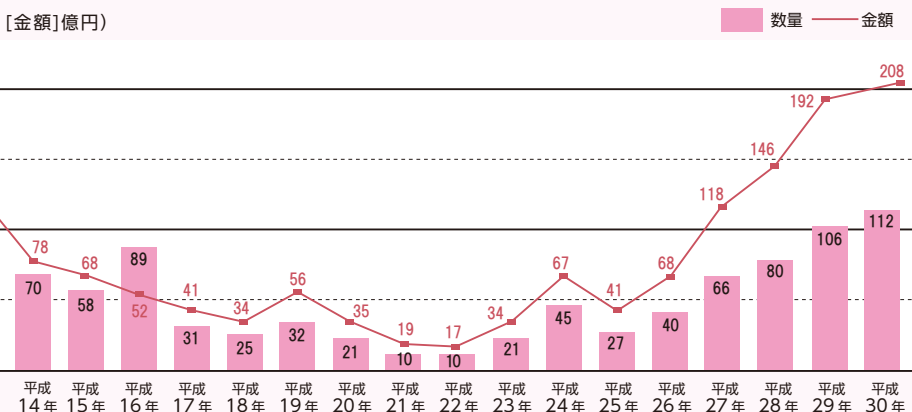




2010-2018



数量・金額推移



主な音楽メディア・サービスの変遷

19世紀後半～1950年頃

エジソン・ベルリナーによる蓄音機の発明



SPレコード

1950年代～1980年代

レコードプレイヤー

LPレコード
カセットテープ

VHS

1982年

CD

ポータブル
カセットプレイヤー
ウォークマン

1980年代後半～1990年代

ラジカセ・CDプレイヤー



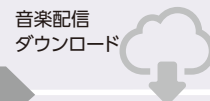
Mini Disc



8cm CD



DVD

音楽配信
ダウンロード

2000年代

着うた®
着うたフル®携帯電話、パソコン、
ポータブルオーディオプレイヤー、
iPod

Blu-ray Disc



BD

高音質CD
SHM-CD
HQCD
Blu-spec CD™

2010年代

スマートフォン
タブレットストリーミング
定額制
聴き放題サービスストリーミング
定額制
聴き放題サービスストリーミング
定額制
聴き放題サービス

平成31年度事業計画書

平成30年の市況を振り返ると、オーディオレコードの年間生産金額は前年比91%の1,576億円と苦戦したものの、音楽ビデオが前年比142%の827億円と大幅に伸長したことにより、音楽パッケージソフト全体（オーディオレコードおよび音楽ビデオの合計）の年間生産金額は前年比104%の2,403億円に増加した。また、音楽配信の売上金額はストリーミングサービスが大きく伸長し、配信市場全体では前年比113%の645億円と5年連続で増加し、この結果、音楽ソフト（オーディオレコード+音楽ビデオ）の生産金額と音楽配信売上の合計は前年比105%の3,048億円と3年ぶりにプラスに転じるとともに、3,000億円台を回復した。しかし、業界を取り巻く環境は依然として厳しい状況にある。

当協会では、担う役割を3つ（①業界の収益を「伸ばす」、②違法を「なくす」、③レコード産業からのメッセージを「伝える」）に整理し、優先度を付けて事業に取り組んでおり、平成31年度も引き続きこの方針を継続する。

平成31年度の具体的な事業は以下の通りである。

〔事業活動〕

〔1〕レコード等の普及に関すること

1.「音楽CDの再販制度」の維持と弾力運用の推進

- (1) 音楽文化発展の基盤となる「音楽CDの再販制度」の存置を引き続き求めるとともに、制度の弾力運用を推進する。
- (2) ユーザーへの還元施策としてインターネット廃盤セールを継続開催する。

2.啓発等を主軸とした業界広報の強化

音楽への接触機会と音楽リスナーの増加を図る総合的な広報施策を検討し、実施する。具体的には、音楽ライフスタイルの啓発施策、「Coming Next Artists」等の新人アーティスト育成支援施策およびサブスクリプションサービスの利用促進施策等を総合的に検討するものとし、そのために特別委員会を設置する。

3.需要喚起関連事業

昨年11月に渋谷で実施したイベント「Music Week」の結果を検証し、音楽の良さや楽しさを発信して音楽リスナーの増加を図る総合的な施策を検討する。検討は前記の新委員会にて行う。

4.「日本ゴールドディスク大賞」の実施

アーティスト・作品の顕彰と日本音楽の歴史の記録として「日本ゴールドディスク大賞」を継続して実施する。

5.日本音楽の海外展開の促進

会員各社の海外展開を支援する施策は、平成29年度から一般財団法人日本音楽産業・文化振興財団(JMCE)に一本化して実施しており、平成31年度もJMCEへの支援を継続する。JMCEの主な海外展開事業は次の通り。

- ①「第16回東京国際ミュージック・マーケット(TIMM)」の開催
- ②アニソン情報検索サイト「JAPAN ANIME MUSIC LAB.」の運営
- ③海外の日本音楽ファンやバイヤー等への情報発信の強化
- ④その他、海外展開関連事業

6.RIAJセミナーの開催

会員各社へのタイムリーな情報提供を目的としたセミナーを定期的に開催するとともに、一部テーマについては広く一般公開も検討する。

7.その他

- (1) 「Music J-CIS (Music Japan-Copyright Information Service) 協議会」(MINC) の構成団体として、音楽権利情報データベースの充実を図る。
- (2) 平成29年度から文化庁が実施している「コンテンツの権利情報集約化等に向けた実証事業」について、平成31年度も事業が継続となる場合には、事業主体となる権利情報集約化等協議会の構成団体として、著作物の適法かつ円滑な利用の促進に引き続き取り組む。同実証事業では、音楽権利情報の検索サイト「音楽権利情報検索ナビ」を構築し、一定期間ユーザーに実験公開している。

〔2〕レコード等に関する調査研究およびデータの収集

1.市場調査、産業統計の充実

パッケージ商品および音楽配信に関する各種産業統計データの的確な集計を行い迅速に公表する。

2.音楽に関する消費者実態調査の実施

「音楽メディアユーザー実態調査」を継続実施し、ユーザー動向の経年変化を把握するとともにユーザー意識の深堀調査を行う。

〔3〕レコードを通じた音楽文化の保存に関すること

1.「文化庁芸術祭」への協力

レコード部門における受付窓口として、選考申請および審査に協力する。

2.「日本プロ音楽録音賞」の共催

録音エンジニアの技術向上と地位確立を目的として継続実施する。

〔4〕著作権および著作隣接権等の普及・啓発に関すること

1.音楽の違法利用を撲滅するための対策の強化

- (1) 違法対策の専任組織「著作権保護・促進センター(CPPC)」において違法音楽ファイルの削除要請を継続して実施する。
- (2) 国外サイトに関しては、国際レコード産業連盟(IFPI)との連携により削除要請の対象を拡大するとともに、中国サイトについては、中国国家版權局との連携やサイト運営事業者への直接訪問による協力関係の構築等により対策を強化する。
- (3) 違法な音楽利用を助長するスマートフォン向け有害アプリに関して、アプリ提供者等に対する注意喚起・警告活動や、アプリ削除要請、違法ファイルへのリンク削除要請、ファイル削除要請等のほか、ストレージサービス事業者に対する注意喚起、警告を継続実施する。
- (4) 悪質な違法行為者の告訴等を継続して実施する。
- (5) ファイル共有ソフトを悪用した違法行為者のうち特に悪質性の高い者に関して、損害賠償請求や告訴等の対応を継続する。

2.啓発キャンペーン等の周知活動

音楽創造サイクルへの理解の促進と違法利用の抑止を目的とする著作権啓発活動のほか、レコード業界が抱える主要な法制課題について、社会からの理解を得るための啓発施策を検討し実施する。

3.著作権教育活動の実施

- (1) 大学寄附講座は、平成29年度から開講した国立大学法人電気通信大学で継続開講し、若年層のレコード産業・著作権制度に対する理解促進に努める。

- (2) 音楽が制作される過程を学び、上質な環境で音楽を楽しむ機会を提供するレコーディングスタジオ見学プログラムを実施するとともに、修学旅行生等の職場訪問受入れなど若年層への著作権教育の機会を増大するための取り組みを継続する。
- (3) その他、著作権教育の促進に資する活動を実施する。

4. クリエイターへの適切な対価還元制度の整備を求める活動

文化庁著作権分科会における検討に参画し、私的録音録画補償金制度の見直しを含む新たな権利者への対価還元制度について、他の権利者団体とともに取りまとめを図る。

5. レコードの業務上の演奏利用から適正な対価が還元される法制度創設に向けた活動

国際レコード産業連盟 (IFPI) や実演家団体と連携して法制度創設に向けた関係省庁等への働きかけを継続して実施する。

6. 「バリューギャップ」問題の解決に向けた活動

大量の投稿動画を公開して大きなビジネスを行う動画サイト運営事業者に係る法的責任の在り方の見直しなど、いわゆる「バリューギャップ」問題の解決を図るため、EUの立法動向等を注視しながら関係省庁に対する必要な働きかけを継続する。

7. 放送の同時送信に関する集中管理事業の推進

放送の同時送信に係る著作権処理円滑化に関する議論の動向を引き続き注視しつつ、レコード製作者の送信可能化権について包括ライセンスを更に円滑化できるよう委任範囲拡大等の課題に取り組む。

8. 一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会 (SARTAS) への参加

授業目的公衆送信補償金の指定団体に参加し、新補償金制度の仕組み作り・運営の支援を行う。

[5] レコード等に関するデータの公表

レコード産業への理解促進と産業全体のイメージ向上を図るため、機関誌、ホームページ、プレスリリース等を活用して積極的に情報発信するとともに、社会貢献活動や文化活動についても広報する。

[6] レコード製作者に係る商業用レコードの二次使用料に関する権利行使の受任、金額の取り決めならびに徴収および分配

二次使用料を安定的に確保するために、放送・有線放送事業者との間で協議を実施し、使用料水準の維持確保に努める。

[7] レコードに関するレコード製作者の複製権、譲渡権および送信可能化権等ならびに実演家の送信可能化権等に関する権利行使の受任、金額の取り決めならびに徴収および分配

1. 放送番組のネット配信にかかる集中管理の取り組み

利用者からの要望を踏まえ、管理対象とする利用形態や委任範囲の拡大について検討と調整を進め、必要に応じて使用料規程の整備を行う。

2. 教育・文化・プライダル分野等のレコード利用集中管理事業の推進

- (1) 教育・文化系催事に係る一任型集中管理事業の安定化に取り組む。
- (2) プライダル分野におけるレコード利用について、平成29年度から開始した一任型集中管理の円滑な運用に努める。また、適法利用に向けた利用者への啓発活動を推進するとともに、許諾を得ずにレコードを利用する事業者への対策を強化する。
- (3) 集中管理の対象とする分野の拡大に向けて、レコード利用実態の把握、関連団体・事業者との協議を開始する。

[8] レコード製作者に係る商業用レコードの公衆への貸与に係る報酬等に関する権利行使の受任、金額の取り決めならびに徴収および分配

貸レコード使用料等の円滑な徴収および分配に努める。

[9] 私的録音補償金に関する指定管理団体の構成員としての業務ならびにレコード製作者に係る当該補償金の受領および分配

私的録音補償金管理協会 (sarah) の構成団体として、私的録音補償金制度の円滑な運用を支援する。

[10] その他

1. 政府の審議会等への委員派遣および経済団体への参画等

文化審議会著作権分科会等へ委員を派遣するなど、外部の会議体等に積極的に参画し、意見を表明する。

2. 国内・国外の団体、機関との連携活動

国内の音楽関係団体並びに国際レコード産業連盟 (IFPI) およびアメリカレコード協会 (RIAA) 等海外のレコード産業団体との連携と情報交換を積極的に推進する。

3. 「レコード倫理審査会」の開催・運営

レコード制作者としての社会的倫理責任を果たすため、「レコード制作基準」に則り「レコード倫理審査会」を開催・運営する。

4. 業界規格 (RIS) の制定と改正

CD等レコード商品の表示、付属品等に関する日本レコード協会規格 (RIS) について必要な制定・改正を行う。

5. ISRC (International Standard Recording Code) の管理機関としての活動

音源の識別に利用されるISRC (国際標準レコーディングコード) の国内登録管理機関として、普及・管理に関する活動やコードの申請受付・交付等を行う。

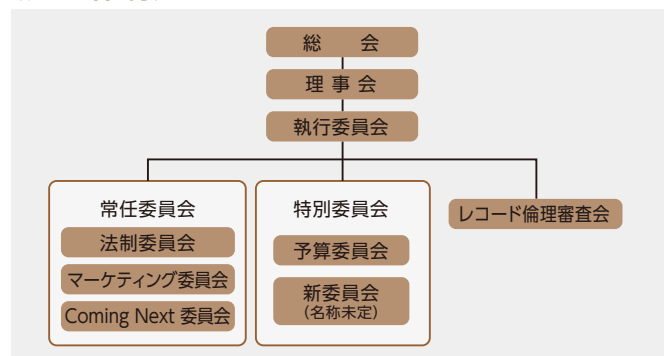
6. 福祉・厚生施設へのレコード寄贈

福祉厚生・療養施設 (児童福祉施設、老人ホーム等) の方々に音楽を楽しんで頂く事を目的として昭和38年 (1963年) から毎年実施しているレコード (CD) 寄贈事業を継続実施する。

7. 会員各社の業務の集約化 (シェアードサービス)

会員各社の業務の効率化と負担軽減を図るため、集約化が考えられる業務に関する会員社ニーズを引き続き把握しながら必要な施策を推進する。

〔運営体制〕



本年度も、関係官庁並びに関係団体の協力を得て業務を推進する。

公正取引委員会へ再販弾力運用報告書を提出

3月11日、当協会は2018年12月31日時点のレコードメーカーによる「音楽CD等の再販制度の弾力運用の状況について」を報告書として取りまとめ、公正取引委員会に提出した。ここでは同報告書より抜粋した内容を掲載する。なお、当協会ホームページにて報告書全文を公開している。

▶再販制度 <https://www.riaj.or.jp/f/leg/saihan/>

音楽用CD等の再販制度に関する弾力的な運用と流通改善について

1. 時限再販・部分再販等再販制度の運用の弾力化

(1) 時限再販期間の短縮について

レコードメーカー各社は、1998年以降時限再販期間の更なる短縮に取り組み、従来発行後2年であった時限再販期間は現在、1年または6ヶ月となっている。

(2) 時限再販期間経過後商品の値引き販売について

主要レコード店をはじめ全国レコード販売店において、値引き販売が実施されている。レコードメーカーは、営業施策の一環として販売店と協力し、年間を通じた時限再販期間経過後商品の店頭値引き販売を適宜積極的に展開している。

(3) 非再販商品の発売と値引き販売について

2018年の全CD新譜数は12,919タイトル(2017年13,384タイトル)であったが、このうち、CD+DVD商品は1,794タイトル(2017年1,860タイトル)、非再販CDのタイトル数は1,902タイトル(2017年1,958タイトル)となり、CD+DVD商品および非再販CDの合計で3,696タイトル(2017年3,818タイトル)と例年4,000タイトル近い商品が非再販商品として発売されている。

なお、CD+DVD商品はヒット作品でも数多く発売されており、2018年に発売され正味出荷枚数が100万枚を超えた「ミリオン認定作品」はシングルで9タイトル(2017年:シングル7タイトル、アルバム1タイトル、計8タイトル)で、その9タイトル全てがCD+DVD商品の形態で発売されている。

(4) 廃盤セールの実施

1992年度から毎年実施しており、好評を得ている。今年度は2回の廃盤セールを実施した。

〈会場即売会〉

名 称: レコードファン感謝祭～廃盤セール in SHIBUYA MUSIC WEEK 2018～
日 程: 2018年11月3日(土・祝)～4日(日) 12:00～21:00
開催場所: 渋谷ストリームホール5F 特設会場
出品商品: 種類約400タイトル、総数約3,000枚
廃盤商品は発売時定価の70%引き、時限再販期間経過後商品は発売時定価の25%引きで販売。

〈インターネット廃盤セール〉

名 称: レコードファン感謝祭～廃盤CDディスカウントセール～
日 程: 2019年1月10日(木)～1月21日(月) 13日間
出品商品: 種類約800タイトル、総数約10,000枚
廃盤商品は発売時定価の70%引き、時限再販期間経過後商品は発売時定価の25%引きで販売。

(5) 価格表示方法変更後の状況について

商品が非再販となっているか否かを認知しやすい方法に変更している。

2. 各種割引制度の導入等価格設定の多様化

2018年のアルバムの年間平均小売価格は2,034円となり、2017年の2,028円より6円上昇した。なお、2001年当面存置決定当時の2,399円対比では約15%値下がっている。

3. 再販制度の利用・態様についての発行者の自主性の確保

従来からレコードメーカー各社が再販制度の利用を自らの判断で決定しており、今後も同様に継続される。

4. サービス券の提供等消費者に対する販売促進手段の確保

サービス券・ポイントカードは消費者サービスの一環として定着している。

5. 通信販売・直販等流通ルートの多様化及びこれに対応した価格設定の多様化

メーカー各社は、従前から消費者の購入利便性の向上のため、通販・直販等流通ルートの多様化に取り組むと同時に、多様な価格設定を行っている。

6. 円滑・合理的な流通を図るための取引関係の明確化・透明化その他取引慣行上の弊害の是正

取引関係に関する特段の弊害はない。

7. その他

レコードメーカー各社、販売店、有料音楽配信サイトでは、CD音源の無料試聴サービスを実施している。また販売店においては、デジタル試聴機が導入されており、2018年12月末時点で406店に1,061端末が設置され、バーコード検索により約385万曲の試聴が可能となっている。

レコード業界は、音楽用CD等の再販制度について国民から引き続き理解が得られるよう、今後も消費者利益の向上を目指し、音楽用CD等の企画の多様性の確保、流通の合理化などの改善に積極的に取り組んでいく。

以上

「知的財産推進計画2019」の策定に関する意見書を提出

1月17日から2月15日にかけて、知的財産戦略本部により実施された「知的財産推進計画2019」の策定に関する意見募集に対し、当協会の意見書を提出したので、以下にその内容を紹介する。

1. クリエイターへの適切な対価還元制度の整備

ユーザーは、デジタル複製機能を有する多種の機器・手段を用いて高品質の録音録画物を容易に作成し、その録音録画物により自分の好きな時に自分の好きな場所で著作物を享受できる環境にある。一方、クリエイターである権利者は、著作物が利用されているにもかかわらず現行の私的録音録画補償金制度の空洞化により、長期に亘って適切な対価還元を受けられておらず、その不利益は拡大する一方であり、制度見直しは一刻の猶予も許されない。2018年度の文化審議会著作権分科会下の小委員会では、既存の論点は議論され尽くされているにも関わらず、「審議のまとめ」に至らなかった。我が国では私的使用目的の複製について広範な権利制限が認められている中、政府は、私的録音録画の実態に応じて柔軟にクリエイターへの対価還元策を講じることができると実効的な制度づくりに向けて、来年度中に結論を得ることを前提に具体的検討を進めるべきである。

2. 「レコード演奏・伝達権」の創設

レストラン、クラブ、店舗等でCDを再生したり、音楽ラジオ放送を受信して伝達する等の方法により来店者等に音楽を聞かせるなど、公衆に聴かせるための演奏・伝達行為について、著作権者は演奏権及び公の伝達権を有しているが、レコード製作者にはこれらに相当する権利（「レコード演奏・伝達権」）が存在せず、レコードの演奏・伝達によって生み出される経済的利益に与ることができていない。

「レコード演奏・伝達権」に相当する権利は、著作権隣接権関連条約で認められている権利として既に世界145カ国（OECD加盟35カ国中33カ国）において導入されている。また、本年2月1日に発効した日EU経済連携協定においても、国際的な基準の重要性を十分考慮しながら、レコードの演奏・伝達に関する十分な保護について継続的に協議することが義務づけられている。政府は、新たなレコード製作の経済的基盤を確保するための権利として、レコード演奏・伝達権を導入に向けた検討を進めるべきである。

3. 動画投稿サイトに係る法的ルールの見直し

動画投稿サイトにおけるUGC（ユーザー生成コンテンツ）の公開について、動画投稿サイト運営事業者は、プロバイダ責任制限法の枠組みに基づき、権利者から侵害通知を受けた後に削除等の送信防止措置を講ずれば原則的に損害賠償責任を負わないものとされている。しかし、電気通信設備・役務の単なる提供を超え、権利侵害コンテンツを含む大量の

UGC公開をビジネスモデルの中核としている動画投稿サイトはプロバイダ責任制限法の制定時には想定されておらず、侵害通知の負担を抱える権利者と、UGC公開により利益を得る動画投稿サイト運営事業者との間に不均衡が生じている。

EUでは、2018年9月、大量のUGCを公開する動画投稿サイト運営事業者について、権利者との契約締結と無許諾配信の防止を求める新指令案（デジタル単一市場における著作権指令案）が欧州議会でも可決され、現在、理事会・欧州議会・欧州委員会の三者間で条文協議が行われている。

我が国においても、EU等の動向も踏まえながら、動画投稿サイトに係る法的ルールの在り方について、法的ルールの見直しの検討を行うべきである。

4. 集中管理の充実による放送番組インターネット同時送信の円滑実施

放送番組のインターネット送信について、当協会は、平成18年にレコード送信可能化権の集中管理を開始し、その枠組みの下でNHK・民放等の放送番組配信は安定的に実施されている。

当協会は、従来より放送事業者のビジネスモデルに応じて包括許諾の契約条件を柔軟に調整し、レコードの利用円滑化を図ってきた。放送番組のインターネット同時送信に関しても、許諾権の切下げは不要であり、現行法制度の下、引き続き、集中管理を促進して包括許諾契約の活用を進めていくことが権利者・利用者双方の利益に適うものと考えられる。

5. 権利侵害コンテンツに誘導するリーチサイト、リーチアプリの規制

インターネット上の著作権等侵害は依然として深刻であり、複合的に対応方策を講じる必要があるが、その一つとして、リーチサイト、リーチアプリによる侵害コンテンツへの誘導を実効的に規制する必要がある。

2018年度の文化審議会著作権分科会下の小委員会では、差し当たりの制度的対応として、特に悪質なリーチサイト、リーチアプリを対象を絞り込んで民事・刑事上の責任を著作権法に明記する方向性が示されているが、侵害コンテンツへの誘導態様の変化にも対応できるような制度づくりに努めるべきである。

「第11回CDショップ大賞2019」授賞式開催

全日本CDショップ店員組合は、3月18日、東京都港区のSELENE b2にて、「第11回CDショップ大賞2019」授賞式を開催し、今回より新しくなった賞の趣旨に基づき、**星野源**の「POP VIRUS」ならびに**折坂悠太**の「平成」の2作品を大賞受賞作品として選出した。

CDショップ大賞では、11回目となる今回より、大賞を①何回でも聴きたい素晴らしい作品＝#神アルバム（と呼べるようなスタンダードとなりうる作品）＜赤＞、②新人の素晴らしいアルバム。受賞をきっかけにブレイクが期待される“本当にお客様にお勧めしたい”作品＜青＞の二つのコンセプトに基づいて選出、星野源「POP VIRUS」は＜赤＞、折坂悠太「平成」は＜青＞での大賞選出となった。

授賞式では、大賞＜青＞を受賞した折坂悠太が会場に駆けつけ、CDショップ店員より記念の盾を受け取り、「賞をもらうような人生を歩んできていないので、驚きと嬉しい気持ちでいっぱいです。合奏メンバー、客演の方、制作に携わってくれた皆さん、流通・プロモーション、CDショップの皆様、受け取って聴いて下さった皆様に心から感謝します」と受賞の喜びを語るとともに生演奏を披露した。

大賞＜赤＞を受賞した星野源からはビデオコメントが寄せられ、「2度目の大賞を頂きまして本当に嬉しいです。ありがとうございます。全国のCDショップの店員さんが選んでくれたこの賞は特別で、現場の実感がこもっている感じがして、それがすごく嬉しいんです。しかも2回も頂けると思っていなかったもので、選んでくださった皆さんありがとうございます」と受賞の喜びを語った。なお、星野源の大賞受賞は第8回（2017年）の「YELLOW DANCER」に続き史上初の2度目となる。

その他部門賞には、洋楽賞にTOM MISCH「Geography」、マエストロ賞にサザンオールスターズ「海のOh, Yeah!!」、ライブ作品賞にサカナクションの「SAKANAQUARIUM2017 10th ANNIVERSARY Arena Session 6.1ch Sound Around」、クラ

シック賞にアリス＝紗良・オット「ナイトフォール」、ジャズ賞にAi Kuwabara the Project「To The End Of This World」、瀧澤歩美「O PATO」、歌謡曲・演歌賞に純烈「プロポーズ」、リビティッド賞にジョン・コルトレーン「ザ・ロスト・アルバム」、特別賞には安室奈美恵、QUEENの2アーティストが選出された。会場にはジャズ賞の桑原あいと瀧澤歩美が登場。二人は受賞盾を受け取り、桑原あいは「To The End Of This World」を演奏し、来場者たちを魅了した。

さらに地域ブロック賞受賞アーティストから、東北ブロック賞の村松徳一、甲信越ブロック賞の須澤紀信、中国ブロック賞のCRAZY VODKA TONIC、九州ブロック賞のodol、沖縄ブロック賞の下地イサムが登場。CDショップ店員からコメントと記念の盾を受け取り感謝の意を述べ、それぞれ1曲ずつ生演奏を披露した。



「平成」を披露する折坂悠太▶



▲受賞盾に手に喜びの表情を見せる受賞者たちと、CDショップ店員



大賞＜赤＞

星野源
「POP VIRUS」
VICL-65085

CDショップ店員コメント(抜粋)

▶彼の発想はまさにJ-POPの最先端ではないかと思えます。ユニークな詩、個性的なサウンドに、私も見事に感染してしまいました。幅広い年齢層に好評をいただいている彼こそこれからのJ-POPを担うアーティストなんだと思いました。

▶今や日本を代表するアーティストとなった星野源。タイトルの「POP VIRUS」、CDショップ店員として、源さんのCDを手に入る人の広がりを目の当たりにしてきた。その広がり方はまさにウイルス的で源さんにぴったりのタイトルだ。多種多様の要素を織り交ぜた楽曲の数々。でも根元にはPOPSがあり、源さんが新たなPOPの在り方を提示してくれた。POP VIRUS感染はまだまだ続いていく、そして源さんの音楽も繋がっていく。



大賞＜青＞

折坂悠太
「平成」
ORSK-005

CDショップ店員コメント(抜粋)

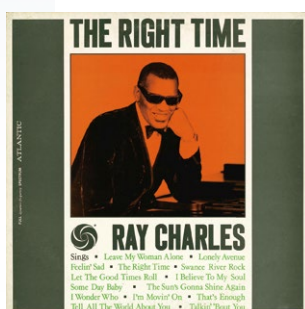
▶とにかく声の存在感でまず、圧倒された！一聴して耳を捉える自由自在な歌と言葉だけでも凄いが、多彩な楽曲と、サクソやクラリネットを用いたノスタルジックなサウンドや、緩急のツボを突いたアレンジも素晴らしく、頭からラストまで、一曲も聴き飛ばすことが出来ないくらい、アルバム全体の完成度が高い！聴きやすいのに、聴き飽きない、ネクストレベルの傑作！

▶少し時差を経てこの作品に出会ったのだけれど、その会えなかった僅かな時間すら惜しくなってしまう。ここに鳴る音も声もふくよかで、ここ数年見つけることのできなかった多幸感をくれる。失われた30年とも言える平成の最後を締めくくってくれる傑作。

私^{わたし} の^{season2} 一枚^{いちまい}

大谷 秀政

株式会社エル・ディー・アンド・ケイ
代表取締役



Ray Charles
「The Right Time」

同居していた叔母さんと3歳上の兄はニューミュージックやフォークが好きで、小学校の頃は井上陽水、チューリップ、荒井由実、オフコース、中島みゆき、浅川マキなどをよく聞いていました。カーステレオ用の8トラ(もう今の人は判らないかも)! 合わせて家に4枚あった井上陽水の「氷の世界」の発売は私が小学校2年生の時です。ゆえに自分で邦楽のレコードを買う必要がなく、中学1年生の時にようやく手に入れた「Ray Charles」の「The Right Time」というLPアルバムが初めて買った一枚です。

偶然、夜中にTVでグラミー賞の授賞式をやっているのをぼんやり観ていたら、サングラスを掛けた黒人がピアノを弾きながら頭を揺らして歌っていました。テロップで盲目だということも紹介されていました。私はなんだかものすごく興奮して翌日すぐに地元豊橋のレコードショップ「名豊ミュージック」に行き「Ray Charles」のレコードを買いに行ったのです。もちろん曲名なんか判りませんでしたし、「名豊ミュージック」の品揃え的にこれしか無かったのかもしれない(後で確認したら当時発売されたばかりのLPでした)。中村とうようさんの解説がジャケット

裏に印刷してある廉価版っぽいLPで当時2000円しなかった覚えがあります。

「The Right Time」にはヒット曲が全く入ってなかったことを後から知りましたが、お気に入りのレコードになりました。まだまだSWING JAZZっぽさの匂いのする50年代の録音。この1曲目の「The Sun's Gonna Shine Again」でやられてからすっかり黒人R&Bにはまり、まずはATLANTICのレコードを集めはじめました(MOTOWNに行くときりが無さそうなので)。特に黒人グループ物が好きで、The DriftersやThe Coasters、The Moonglowsなど。特にThe Cleftonesの「Heart and Soul」ってアルバムが好きでヘビーローテーションでした。浅川マキの「浅川マキの世界」の次ぐらいに。

高校に入りThe Coastersみたいなバンドを組みたいと思いテナーサックスを買いました。しかしながらBass担当がロカビリーをやりがりWood Bassを買ってきてしまいました。そこから音楽遍歴もR&Bからロカビリーをやり。それらのカバーバンドとしてのストーンズ、ビートルズ、ヤードバーズ、ゼムなどのブリティッシュロック、ファッションもMODSになりGSやスカ、レゲエ、パンクなどという風に順を追って流れていくことになったのです。

そして1986年、私が18歳の時、地元豊橋市が市制80周年イベントでRay CharlesとB.B. Kingを招聘した時は歓喜しました。

豊橋というところはそういう土地柄だったのかもしれない。

(追記。初めて"買ってもらった"レコードは「皆川おさむ／黒ネコのタンゴ」です)

Monthly Production Report 2019年2月度レコード生産実績



2月度の音楽ソフト(オーディオレコード・音楽ビデオの合計)の生産実績は、数量で前年同月比105%の1,507万枚・巻、金額で同125%の195億円となった。

内訳は、オーディオレコードが、数量で前年同月比106%の1,105万枚・巻、金額で同120%の130億円。音楽ビデオが、数量で前年同月比105%の401万枚・巻、金額で同135%の66億円となっている。

オーディオレコード

(数量:千枚・巻/金額:百万円)

		2月実績						2019年1月~2019年2月 累計					
		数量	構成比	前年 同月比	金額	構成比	前年 同月比	数量	構成比	前年 同期比	金額	構成比	前年 同期比
8cmCD シングル	邦	3	0	179%	2	0	118%	3	0	124%	2	0	97%
	洋	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
	計	3	0	179%	2	0	118%	3	0	124%	2	0	97%
12cmCD シングル	邦	3,605	33	87%	2,883	22	86%	6,535	33	87%	5,749	25	93%
	洋	0	0	7%	0	0	8%	1	0	15%	1	0	18%
	計	3,606	33	87%	2,883	22	86%	6,536	33	87%	5,751	25	93%
シングル 計	邦	3,608	33	87%	2,884	22	86%	6,538	33	87%	5,752	25	93%
	洋	0	0	7%	0	0	8%	1	0	15%	1	0	18%
	計	3,608	33	87%	2,884	22	86%	6,539	33	87%	5,753	25	93%
12cmCD アルバム	邦	6,127	55	123%	8,704	67	146%	10,544	54	104%	14,779	64	110%
	洋	1,135	10	93%	1,063	8	83%	2,238	11	101%	2,307	10	99%
	計	7,261	66	117%	9,767	75	135%	12,782	65	103%	17,086	73	108%
CD計	邦	9,734	88	107%	11,588	90	124%	17,082	87	97%	20,531	88	105%
	洋	1,135	10	93%	1,064	8	82%	2,240	11	101%	2,309	10	99%
	計	10,870	98	105%	12,652	98	119%	19,322	99	97%	22,839	98	104%
アナログ ディスク	邦	54	0	130%	110	1	144%	63	0	129%	128	1	149%
	洋	33	0	137%	64	0	148%	64	0	133%	120	1	140%
	計	87	1	133%	174	1	146%	128	1	131%	248	1	145%
カセット テープ	邦	67	1	279%	59	0	293%	96	0	124%	84	0	133%
	洋	0	0	13%	0	0	12%	0	0	14%	0	0	15%
	計	67	1	278%	59	0	291%	97	0	124%	84	0	132%
その他	邦	10	0	201%	20	0	214%	17	0	164%	29	0	154%
	洋	19	0	173%	42	0	174%	29	0	96%	63	0	102%
	計	29	0	182%	62	0	185%	46	0	113%	92	0	114%
合 計	邦	9,866	89	107%	11,776	91	125%	17,259	88	97%	20,772	89	105%
	洋	1,187	11	94%	1,170	9	86%	2,333	12	102%	2,492	11	100%
	計	11,053	100	106%	12,946	100	120%	19,592	100	98%	23,264	100	104%

音楽ビデオ

		2月実績						2019年1月~2019年2月 累計					
		数量	構成比	前年 同月比	金額	構成比	前年 同月比	数量	構成比	前年 同期比	金額	構成比	前年 同期比
DVD	邦	2,632	66	85%	3,649	56	112%	5,224	68	86%	6,524	50	90%
	洋	26	1	93%	40	1	88%	187	2	328%	294	2	349%
	計	2,658	66	85%	3,689	56	112%	5,411	70	88%	6,818	53	93%
ブルーレイ ディスク	邦	1,348	34	190%	2,840	43	189%	2,274	29	141%	5,954	46	156%
	洋	7	0	56%	26	0	60%	51	1	271%	173	1	301%
	計	1,354	34	187%	2,866	44	186%	2,325	30	142%	6,127	47	159%
テープ・その他	邦	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
	洋	3,980	99	105%	6,489	99	136%	7,498	97	97%	12,477	96	113%
	計	33	1	82%	66	1	74%	237	3	314%	467	4	329%
合 計	邦	4,013	100	105%	6,555	100	135%	7,736	100	99%	12,945	100	116%

音楽ソフト(オーディオ/音楽ビデオ合計)

		2月実績						2019年1月~2019年2月 累計					
		数量	構成比	前年 同月比	金額	構成比	前年 同月比	数量	構成比	前年 同期比	金額	構成比	前年 同期比
オーディオレコード計	邦	11,053	73	106%	12,946	66	120%	19,592	72	98%	23,264	64	104%
	洋	4,013	27	105%	6,555	34	135%	7,736	28	99%	12,945	36	116%
	計	15,066	100	105%	19,501	100	125%	27,328	100	98%	36,209	100	108%
音楽ビデオ計	邦	13,846	92	106%	18,265	94	129%	24,757	91	97%	33,250	92	108%
	洋	1,220	8	94%	1,236	6	85%	2,571	9	108%	2,959	8	112%
	計	15,066	100	105%	19,501	100	125%	27,328	100	98%	36,209	100	108%

ビデオレコード(含音楽ビデオ)

		2月実績						2019年1月~2019年2月 累計					
		数量	構成比	前年 同月比	金額	構成比	前年 同月比	数量	構成比	前年 同期比	金額	構成比	前年 同期比
DVD	邦	4,858	70	80%	6,254	51	100%	9,792	72	89%	11,836	51	92%
	洋	2,121	30	124%	6,005	49	125%	3,759	28	113%	11,479	49	119%
	計	6,979	100	89%	12,260	100	111%	13,551	100	95%	23,315	100	103%

オーディオ/ビデオレコード合計

		2月実績						2019年1月~2019年1月 累計					
		数量	構成比	前年 同月比	金額	構成比	前年 同月比	数量	構成比	前年 同期比	金額	構成比	前年 同期比
オーディオレコード計	邦	11,053	61	106%	12,946	51	120%	19,592	59	98%	23,264	50	104%
	洋	6,979	39	89%	12,260	49	111%	13,551	41	95%	23,315	50	103%
	計	18,031	100	99%	25,206	100	115%	33,143	100	96%	46,579	100	104%

備 考 1.本統計は、当協会会員社の集計である。会員社が受託した非会員社からの販売受託分を含む。
2.単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。
3.オーディオレコードのその他はSACD、DVDオーディオ、DVDミュージック、MDの合計。

音楽ソフト

シングル | 邦楽

トリプル・プラチナ	黒い羊	樺坂46	2019.02.27	ソニー・ミュージックレーベルズ(ソニー・ミュージックレコーズ)
	LOVE IS A BATTLEFIELD	Hi-STANDARD	2000.04.05	ビザ・オブ・デス・レコーズ
プラチナ	好きと言わせたい	IZ*ONE	2019.02.06	ユニバーサル ミュージック
	風を待つ	STU48	2019.02.13	キングレコード
	床の間正座娘	NMB48	2019.02.20	よしもとミュージックエンタテインメント (laugh out loud! records)
	君を大好きだ	Kis-My-Ft2	2019.02.06	エイベックス・エンタテインメント
ゴールド	Believe again / Brightest Melody / Over The Next Rainbow	Saint Aqours Snow	2019.02.06	バンダイナムコアーツ
	微炭酸 / ポツリと / Good bye & Good luck!	Juice=Juice	2019.02.13	アップフロントワークス(ハチャマ)

アルバム | 邦楽

プラチナ	Eye of the Storm	ONE OK ROCK	2019.02.13	A-Sketch
ゴールド	瞬間的シックスセンス	あいみょん	2019.02.13	ワーナーミュージック・ジャパン
	綾小路さきまろ 爆笑スーパーライブ第5集!	綾小路 さきまろ	2013.07.17	テイチクエンタテインメント
	THE BAY	Suchmos	2015.07.08	スペースシャワーネットワーク
	Eye	SEKAI NO OWARI	2019.02.27	トイズファクトリー
	Lip	SEKAI NO OWARI	2019.02.27	トイズファクトリー
	Nissy Entertainment 5th Anniversary BEST	Nissy (西島隆弘)	2019.02.04	エイベックス・エンタテインメント
	WORLDISTA	NEWS	2019.02.20	ジャニーズ・エンタテインメント

ビデオ | 邦楽

プラチナ	関ジャニ'sエンターテインメント GR8EST	関ジャニ∞	2019.1.23	ジェイ・ストーム(インフィニティ・レコーズ)
------	-------------------------	-------	-----------	------------------------

※日付けは発売日

有料音楽配信

シングルトラック | 邦楽

ダブル・プラチナ	明日晴れるかな	桑田 佳祐	2007.05.28	JVCケンウッド・ビクターエンタテインメント
	瞬き	back number	2017.12.20	ユニバーサル ミュージック
	アイネクライネ	米津玄師	2014.04.09	ユニバーサル ミュージック
プラチナ	やさしさに包まれたなら	荒井 由実	2005.03.10	ユニバーサル ミュージック
ゴールド	アンビバレント	樺坂46	2018.08.15	ソニー・ミュージックレーベルズ(ソニー・ミュージックレコーズ)
	獣ゆく細道	椎名林檎 と 宮本浩次	2018.10.02	ユニバーサル ミュージック
	ヒプノシスマイク -Division Battle Anthem-	Division All Stars	2018.05.04	キングレコード
	まだ君は知らない MY PRETTIEST GIRL	Nissy (西島隆弘)	2016.07.22	エイベックス・エンタテインメント
	パブリカ	Foorin	2018.08.13	ソニー・ミュージックレーベルズ(ソニー・ミュージックレコーズ)

シングルトラック | 洋楽

ゴールド	ウィ・ウィル・ロック・ユー	クイーン	2011.01.12	ユニバーサル ミュージック
------	---------------	------	------------	---------------

※日付けは配信開始日

認定基準一覧 音楽ソフト(アルバム・シングル・音楽ビデオ)、音楽配信(着うた®、シングルトラック・アルバム) 共通

名 称	ゴールド	プラチナ	ダブル・プラチナ	トリプル・プラチナ	ミリオン	2ミリオン
基 準	10万以上	25万以上	50万以上	75万以上	100万以上	200万以上

基準単位:音楽ソフト・枚、配信、DL(ダウンロード数)
備考 1. 着うた®のみダブル・プラチナ以上を顕彰
2. 「着うた®」は株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です
3. 3ミリオン以降、100万毎に認定

協会からのお知らせ

当協会は、「日本のレコード産業2019」を発行いたしました。本誌は、2018年のレコード産業の概要を網羅したA4版24ページの小冊子で、レコードの生産実績、音楽配信売上、新譜・カタログ数、ミリオン認定などの情報を幅広く掲載しています。なお、英語版「RIAJ YEARBOOK 2019」は5月発行予定です。本誌のPDF版については、当協会ホームページをご覧ください。

▶日本のレコード産業

<https://www.riaj.or.jp/f/issue/industry/>



編集後記

せつかくの時代の区切り…ということで、今号の特集ではレコード産業周辺について平成時代を振り返りました。たまたま校了日が新元号発表の日と重なる！というタイミングでもあり、すっかり本文に入れさせていただきました。なお、本特集ですが、ひと月の特集ではおさまりきらず、改元のタイミングを挟みまして次号・後編に続きます。(M)

THE RECORD No.713 2019年4月号

一般社団法人 日本レコード協会 機関誌

発行人 重村 博文

編集人 原 康晴

発行日 2019年4月10日

発行 一般社団法人 日本レコード協会

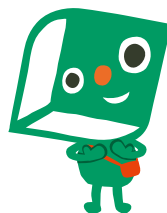
〒105-0001

東京都港区虎ノ門2-2-5 共同通信会館9階

TEL.03-5575-1301(代) FAX.03-5575-1313

URL:<https://www.riaj.or.jp/>

編集協力 株式会社金羊社 / ヤマモトカウンシル



エルマークキャラクター

エルマーくん

■当機関誌へのご意見・ご感想がございましたら

当協会公式サイト(URL:<https://www.riaj.or.jp/>)のお問い合わせページよりお寄せください。